



静岡県偕行会東京研修について

東部部長 柴田晃次（陸自69）

静岡県偕行会（会長阿部順治陸自57）は恒例となった東京研修を3月15日実施した。本研修は新規入会者を主対象として毎年行っており、今回が4回目。

内容は例年通り市ヶ谷防衛省見学、靖國神社遊就館見学・昇殿参拝、千鳥ヶ淵墓苑参拝、偕行社本部での意見交換であり、士官学校出身の先輩方の参加を検討されたが体調等考慮し見送りとなった経緯もある。今回は20代賛助会員を含む会員22名が参加し、静岡地域のマイクロバスの支援をえて、静岡・御殿場を出発、東名高速・首都高速と約2時間の車中で懇談・旧交を温めた。予定通り市ヶ谷に到着。御殿場出発時は降っていた雪が残る肌寒い位だったが、雨も上がり、絶好の研修日和となった。

最初の記念館見学では、市ヶ谷台の歴史を再確認し、士官学校・陸軍省の頃、東方総監部・32連隊、東京裁判、三島事件と、それぞれの時代を肌と感じ、各人・各様の思いで見学することができた。また気になっていた地下壕の現況につ

いても確認できた。厚生センターで休憩後、昨年出生なかった殉職隊員慰霊碑に参拝し無事終了。

ついで靖國に向かい、桜の開花も気になる標本木の観察や、写真撮影。その後遊就館に前進。見学は、葛原文庫室長の説明を受け、のちは昼食時間まで各自の自由見学とした。

今までに何度か見学している人が多く、興味のある正面・分野を主体に、時間を有効に活用した。我が国に対する周辺諸国のなめたような行動の続く昨今、あらためて愛国心のわいてくるのを感じ、崇高な使命感を実感しつつ、月例参拝の方々も同行して昇殿参拝を厳かに実施した。続いて千鳥ヶ淵墓苑にて全員で献花参拝し、偕行社に向かった。

偕行社での意見交換会は、地方偕行会が本部に直接ものを言うことのできる数少ない機会であり、有意義なものを楽しみにしていた。今回も、深山副理事長はじめ、多くの理事の参加を得て和気あいあいの中始まった。

初めに偕行社側から最近の状況、特に隊友会等と共同での政策提言の紹介、会員と準会員との差をなくす等の話があった。ついで当会の参加21名がそれぞれ自己紹介し、その後本部に対する質問・要望等を発信。途中からゲスト会員の参入や、アルコールの影響もあり、様々な意見が飛び交い、懇親を深めて盛会のうち

に終了した。

今回も参加者から、大変意義深い研修だったとの声を聞き、一安心した次第である。

最後に、静岡県偕行会の活動現況であるが、元幹部自衛官の会員数は伸びてはいるものの、130数名とやや伸びが鈍化。当面は150名の達成が目標。当会も他のOB会と同様、会員の高齢化が進みつつあり、退官間もない若手会員の増勢に更に留意し、また入会した会員が引き続き活動してくれるよう魅力化対策が必要である。

このため毎月開催の役員会では、市民の防衛意識の高揚に資する講演会等を計画している。今後は隊友会・家族会等防衛協力諸団体の共催で実施したく、次回はその方向で準備中である。

また、各自自治体主催の戦没者慰霊祭にも、できる範囲で努めて多く参列する。会員懇親の場合は、年に1度の日帰り温泉での懇親会と、今回の東京研修を設けている。